

「学びの教室」

令和6年5月2日
 特別支援教室「学びの教室」
 巡回指導拠点校・通級指導校
 文京区立駒本小学校
 校長 根来 郁明
 文京区立汐見小学校(巡回校)
 校長 山田 晴康

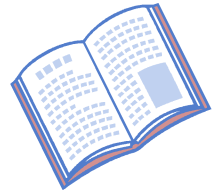
駒本小学校特別支援教室直通電話 3827-5575(ファクシミリ兼用)

通信

言葉を増やすということ

先月、休み時間などに、特別支援教室を利用している子どもたちとおしゃべりをしていると、新学年になって配布された国語の教科書が話題に上がることがありました。どうしているのか話を聞くと、

- ①配られたらすぐに全部の話を読んでしまう
 - ②興味がないので授業までそのまましておく
 - ③読んでみたいけれど言葉や漢字が分からないのでペラペラめくるだけ
- と、大きく3つのタイプに分けられました。



①のタイプのお子さんは、そのまま特段の支援はなくても良さそうですが、②や③の場合、お子さん自身の言葉を使って考える力、思考を表現したり説明したりする能力に弱さがある可能性があります(WISC-IVやWISC-Vで言語理解指標:VCIと呼ばれる指標で表される能力です)。言葉が分からない・知らない単語が多い→読書など文字を読んで情報を入力することに前向きになれない→語彙が増えない→さらに読書が進まなくなる、という負の螺旋に陥らないためにも、そういったお子さんに「言葉の力」をつけてあげることが大切になってきます。

さて、「言葉の力」をつけると言っても、そもそも「言葉の力」自体が多岐にわたるため、今回は、家庭で取り組める語彙力アップについて簡単に取り上げます。

● 言い換え

言葉が話せるようになった乳児が、お父さんやお母さんに自動車を指さしながら「ブーブー!」と伝えてくることがあります。そのとき大人が「ブーブー、クルマだね。」と返してあげることで、子どもの頭の中には「ブーブー＝クルマ」という知識がインプットされます。年齢に関係なく、こうやって(他の方法もありますが)、家族でやりとりをしてあげると語彙力アップに役立ちます。

● 辞書占い

高学年になって辞書が使えるようになったら、辞書占いはいかがでしょうか。占いをする人が、目を閉じて辞書を手に取り、エイッと開いたページで、〇〇指が押さえている言葉が今日の予言といったものです。家族みんなで取り組んでみるのもおもしろそうです。

※本稿を執筆しながら三省堂「小学国語辞典」で試してみたら「みやびやか 上品で美しい様子。風流。例)みやびやかな踊り」と出ました。



<保護者の皆様へ 年度当初個人面談について>

4月16日(火)より実施している年度当初個人面談にご協力をいただきありがとうございます。

ご家庭とのやりとりの中でいただいたお子さんの現在の状況や課題などを参考にして、現在、各担当教員が、個別指導計画を作成しています。面談は限られた時間でしたので、伝え忘れたことなどがありましたら、いつでもお気軽に特別支援教室(直通電話3827-5575)まで、お電話ください。よろしくお願います。

5月のコミュニケーションタイムの主な学習予定

「サーキットトレーニング(1)」

昨年度は、育成室とのタイムシェアのため、1学期にサーキットトレーニングを実施できませんでした。今年度は、例年通り、5月にサーキットトレーニングの第1弾に取り組みます。

特製カードを手に、各運動コーナーを自分で回ります。運動会が近づいてきたこともあり、身体を動かすことを楽しみにしている子どもも多いようです。今回も、どのような運動に取り組むか、あえて、紙面ではお知らせしませんので、どんなコーナーがあったか、何がおもしろかったか、ぜひご家庭で話題にしてみてください。

●学習指導要領「自立活動」関連項目

- 5 身体の動き
 - (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること
- 6 コミュニケーション
 - (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

以上